

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	社会福祉法人 長岡福祉会 友岡保育園	施設 種別	保 育 所 (旧体系：)
評価機関名	社団法人 京都社会福祉士会		

平成 23 年 7 月 26 日

総 評	<p>社会福祉法人長岡福祉会・友岡保育園は、平成12年に長岡京市保育所統廃合計画により、昭和47年開設の長岡京市立友岡保育所と昭和45年開設の長岡福祉会二葉保育園とが統合されてきた児童福祉施設です。統合時の定員は120名でしたが、定員増加に伴い、施設の増改築や改修を重ねながら、現在は150名の乳幼児の保育を行っています。園児の伸び伸びとした楽しそうな表情、明るく活発な行動、そして保育園児・保護者・職員間の家庭的で温もりのある繋がりを目の当たりにすることができました。</p> <p>保育目標を平成16年より「愛につつまれ輝く子ども」としています。豊かな愛情につつまれているという実感を持つことで、一人ひとりが内面から生き生きと輝き、意欲的で思いやりのある子どもを育むよう努めてきました。</p> <p>この目標が、施設長を始めすべての職員に深く認識され、日々の実践に活かされていることを実感できる施設です。</p>
特に良かった点(※)	<p>○ 「保育の理念・基本方針・目標が確立されている」</p> <p>保育の基本方針を、「全職員が全園児にかかわる」をモットーにし、クラス体制の枠を越え、一人ひとりの園児に細やかなかわりを持ち、見守ることで豊かな人間関係を創っています。家庭や地域との繋がりを大切にし、地域社会の一員として心の通うぬくもりのある人間関係を育んでいます。</p> <p>○ 「遊びや生活を通して人間関係が育つように配慮している」</p> <p>平成16年に「人とかかわる力」を育てたいという思いから異年齢交流を保育の中に積極的に取り入れ、3・4歳児の「異年齢クラス」や3・4・5歳児3人1組の「きょうだいグループ」を誕生させました。家庭での関係や役割による経験に、保育園の異年齢保育による学びを重ねることで、周りの環境を観察し、他者の行動に関心を持つことができます。これらが園児自身の育つ力となり、成長・自立へのエネルギーとなっています。</p> <p>○ 「食事を楽しむことができる工夫をしている」</p> <p>食への関心を高めるために様々な食育活動に取り組んでいます。貸し農園での玉葱・さつまいもを栽培しています。玉葱を各園児が自宅に持ち帰り、調理後の微笑ましい感想が掲示されています。さつまいもは園近隣の方々に配り、日々の感謝の気持ちを伝えています。園庭の様々な場所を活用した花壇で季節の野菜や花々の栽培も行っています。</p> <p>また、当保育園オリジナルヒーロー食育戦隊「タベルンジャー」は、食生活の知識だけでなく、生命そのもののあり方に子ども自らの関心が高まっていくような活動を展開しています。</p>

<p style="text-align: center;">特に改善が 望まれる点(※)</p>	<p>○ 「中・長期的な計画の策定を目指して」 事業計画書で、保育課題等は具体的な目標が設定されていますが、施設課題に関する計画はやや具体性に欠け、中長期の課題も設定されていませんでした。 今後は、施設課題についても具体的な計画を立案するように努めてください。また、中長期計画を立て、目標を明確にすることで、単年度で達成が困難な事案についても、目標達成に近づくことが出来ると思います。是非、中長期計画の立案も検討してください。</p> <p>○ 「利用者に関する記録の管理体制について」 利用者に関する記録は、保管・保存等に関しては規程していますが、廃棄の方法や開示に関するものではありません。廃棄の方法や、開示に関しても明確・詳細なマニュアルの作成が望まれます。</p> <p>○ 「手洗い場を子どもの利用しやすい設備に」 昭和47年に開設された施設ですが、トイレ等は順次安全で快適な環境へと整備されてきました。しかし、手洗い場は開設当時のままのため、老朽化し、改修を要する状況となってきました。 ケアやハード面への細やかな工夫により、とりたてて不都合なことはなかったとのことですが、単年度計画では難しくても、改修案を中・長期計画に採用し、最善の環境での保育につないでいかれてはいかがでしょうか。</p>
--	---

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	社会福祉法人 長岡福祉会 友岡保育園
施設種別	保育所
評価機関名	社団法人 京都社会福祉士会
訪問調査日	平成23年6月24日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化され、確立されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-1(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-1(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	B	B
	I-2-1(2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている。	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	A	A
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	A	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-1(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	B	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

[自由記述欄]

I-1-1(1)①②保育理念・保育の基本方針・保育目標が明文化され、園内に掲げられ、園のパンフレットや入園のしおりにも掲載されています。
 I-1-1(2)①保育理念・方針・目標を年度初めの職員会議で園長が説明し、毎月の職員会議においても意識付けするように工夫しています。
 I-1-1(2)②保育理念・方針・目標は、園のパンフレット・入園のしおりに記載し、入園面接や入園式の時に園長が保護者等に丁寧に説明し、周知を図っています。
 I-2-1(1)①事業計画を作成し、保育課題や施設課題に取り組んでいますが、中・長期計画としては策定されていません。
 I-2-1(2)①保育課程の作成にあたり、子どもと家庭、友岡地区の実情をよく把握し、年度当初に職員会議で見直しを行っています。
 I-2-1(2)②年4期に分けて作成された保育計画は、保育課程や指導計画との整合性を配慮したものとなっています。
 I-2-1(2)③指導計画は、それぞれの主任保育士が点検・検討・反省・評価を行い、次の計画に生かしています。
 I-2-1(2)④保育課程と年間指導計画等の編成は多くの職員の参画により組織的に進んでいます。
 I-2-1(2)⑤保育課程・指導計画は、全職員に配布され、ミーティングにおいても周知を図っています。保護者へは、「園だより」や「クラスだより」においてわかりやすい言葉で説明しています。
 I-3-1(1)①管理者は自らが果たすべき役割・責任を明確にしています。入園式や、「あいあい広場」「あいあい通信」「園だより」といった広報を通じて自らの責任を表明し信頼を得ています。
 I-3-1(1)②園長、職員が研修に参加して、各種法令の把握と遵守に努めています。前回の第三者評価時のアドバイスにより法令等のリスト化も行っています。
 I-3-1(2)①管理者は各ミーティングにも参加し、会議等で出た意見を基に、職員と共に業務の改善に取り組んでいます。
 I-3-1(2)②経営や業務の改善に関しては、法人で業務改善・効率化に取り組み、当保育園としても多くの記録の効率化や改善に取り組んでいます。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-1(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	B	B
II-2 人材の確保・養成	II-2-1(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
	II-2-1(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
		② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A
	II-2-1(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A
II-2-1(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A	
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A	
II-3 地域との交流と連携	II-3-1(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	B	B
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	B
	II-3-1(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A

[自由記述欄]

II-1-1(1)①保育通信情報誌や京都府保育協会、長岡京市民間園長会等で人口動態や行政情報等を入手していますが、利用者や待機者の増えている状況に対応できているとは言えません。

II-2-1(1)①保育基準により有資格者の職員が配置されています。

II-2-1(2)①職員の意向、就業状況については、「スキルアップ計画」や「自己評価表」を取り入れ、また、面接等により、悩みや相談が容易にできる体制となっています。

II-2-1(2)②共済会への加入、健康診断受診に際しての一定の補助等の福利厚生を行っています。

II-2-1(3)①職員の教育・研修に関する基本姿勢が理念や基本姿勢・サービス規程の中にも明示されています。

II-2-1(3)②③計画的な研修は、一人ひとりの「スキルアップ計画」に基づき研修参加の機会を得ています。研修受講後の報告書の提出や職員会議での発表の機会を通して評価・見直しを行っています。

II-2-1(4)①②実習生の受け入れ、中・高校生の体験学習の受け入れ等の育成の体制はできており、毎年実習生等を積極的に受け入れています。

II-3-1(1)①地域の「ごみゼロ運動」や「ガラシャ祭り」等に園児や職員が積極的に参加し、交流を図り良好な関係を保っています。

II-3-1(1)②地域子育て支援として園庭開放や育児相談等の実施、また、「おもちゃ病院」では地域の方からの修理も受け入れています。ホームページは作成予定とのことです。

II-3-1(1)③ボランティアの受け入れに対する基本方針は明示されていますが、受け入れ時のマニュアルは作成されていません。

II-3-1(2)①長岡京市及び保育園周辺の必要な社会資源を把握して園の運営に活かしています。

III 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
III-1 利用者本位の福祉サービス	III-1-1(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A

	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	①	苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		②	利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	①	定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A
		②	定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	B	B
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	①	入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	B
		③	利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	①	利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B	B
		②	保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	①	転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	A

[自由記述欄]

Ⅲ-1-(1)①プライバシー保護に関する規定やマニュアルを整備し、ボランティアや実習生にもオリエンテーションで徹底するよう働きかけています。
Ⅲ-1-(2)①②苦情解決の仕組みを明示し、苦情内容及び解決結果等は「あいあい通信」や「園だより」で保護者に公開しています。
Ⅲ-2-(1)①前回の受診は平成20年1月で、今回が2度目の受診です。職員の参画により評価結果や評価項目の分析が行われ、改善策の実施に繋がっています。
Ⅲ-2-(1)②保育士各自の自己評価は毎月行われています。これを基盤にしつつ「保育所における自己評価ガイドライン」を参考に組織評価に力を注ぐ予定です。
Ⅲ-2-(2)①入園・進級にあたっては健康状態、生活状況等のアセスメントを行い、「けんこうきろくノート」「健康管理表」「児童票」に記録しています。
Ⅲ-2-(2)②園児の記録は詳細に記述・分析・検討し、鍵付きのロッカーに保管しています。しかし、情報開示を求められたときのマニュアルや規程はありません。
Ⅲ-2-(2)③園児の情報については、毎日の朝礼、週一回の乳児・幼児ミーティング、月一回の職員会議、随時の打ち合わせ等で職員間で共有しています。
Ⅲ-3-(1)①保育園の情報については、パンフレットを写真やイラストを交えながらわかりやすく工夫して作成しています。見学希望者には主に園長や主任が丁寧に対応して案内しています。しかしホームページは作成予定です。
Ⅲ-3-(1)②入園にあたっては、「入園のしおり」「保育用品申込書」等を提示し、個人懇談で保護者等にわかりやすく説明し、同意を得ています。
Ⅲ-3-(2)①転園、卒園にあたっては情報の申し送りをして、継続した対応ができるように努めています。

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	①	登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		②	健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③	歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④	感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤	食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥	子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦	子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧	アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A

IV-1-(2) 保育環境	①	子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	B	B
	②	生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
IV-1-(3) 保育内容	①	子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
	②	基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
	③	子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
	④	身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
	⑤	さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
	⑥	遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
	⑦	子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	A	A
	⑧	性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けられないよう配慮している	A	A
	⑨	乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
	⑩	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	B
	⑪	障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A

[自由記述欄]

IV-1-(1) ①登降園時、保護者との口頭や連絡ノートによるコミュニケーション、注意深い観察等により、異常の発見や迅速な対応に努めています。健康・保健管理マニュアルも作成しています。

IV-1-(1) ②健康診断の結果は、「けんこうきろくノート」に記入し、迅速な保護者等への伝達、また保育そのものに反映させています。また、健康診断の特記事項については「カンファレンスノート」に記載し、全職員が把握できるようにしています。

IV-1-(1) ③園児の口腔ケアについても園医の指導を受け、保育に反映させています。歯科検診の結果も保護者、職員一同に周知徹底を図っています。

IV-1-(1) ④感染症マニュアルが備えられています。保育室に除菌機能が付いた空気清浄機を設置するなど、感染予防に努めています。

IV-1-(1) ⑤食育に力を入れています。栄養士、職員一同で食事を楽しむことができる工夫、企画を練っています。

IV-1-(1) ⑥喫食状況を把握して献立の編成に活かし、給食試食会の開催、アンケートや感想により改善に努めています。おやつも手作りを心掛けています。

IV-1-(1) ⑦園児の食生活について保護者と連携ができています。栄養別に分けた「3色献立表」を配布したり、食育だより「くいしんぼ」を発行し、給食レシピの紹介や情報を保護者に伝えています。

IV-1-(1) ⑧専門医からの指示によるアレルギー対応の食事を準備しています。個別対応に間違いがないように二重チェック方式を取り入れています。

IV-1-(2) ①園内の衛生面、環境面には十分に配慮し、空気清浄機も各部屋に設置しています。しかし、手洗い場のみが設立時から改修が行われていません。

IV-1-(2) ②園庭のあちこちに花壇を設置し、季節の花や食物を栽培しています。室内のコーナーには好きな遊びを好きなコーナーできるように子どもの生活環境を尊重したコーナー創りを心がけています。

IV-1-(3) ①「全職員が全園児にかかわる」ことをモットーにし、園児一人ひとりへの理解と配慮を深め、寄り添えるように心がけています。

IV-1-(3) ②園児一人ひとりの生活リズムを大切に、その状況に応じて対応をしています。また、デイリープログラムの中では毎日同じ流れを習慣づけることをし、自立への動機付けに役立たせています。

IV-1-(3) ③1F・2Fそれぞれにおもちゃ倉庫があり、「おもちゃリスト」を作成し、発達段階に応じたおもちゃの準備がしやすいように工夫しています。園児が自発的に活動できる環境づくりに努めています。

IV-1-(3) ④保育室に親しみやすい小動物(カモ、カブトムシ、ザリガニ、金魚、亀、アゲハチョウ)等を飼育したり、園庭に季節の花や野菜を栽培しています。また、保育園周辺に園外保育に出かける機会を作り、自然、社会と関わるように努めています。

IV-1-(3) ⑤園児がさまざまな表現活動(歌や踊り、ふれあい遊び、表現遊び、わらべ歌、リトミック、合奏や大太鼓等の演奏)にバランス良く取り組めるような働きかけができています。

IV-1-(3) ⑥「異年齢クラス」や「きょうだいグループ」を通して、日々の生活で自然と人間関係が育つように配慮しています。また、園児各自の特性に合わせて自発的にいろいろな取り組みができるように環境整備をしています。

IV-1-(3) ⑦「子どもは生まれながら自ら育つ力がある」ことを前提におき、一人ひとりの人格を尊重して保育にあたるよう心がけています。

IV-1-(3) ⑧職員の共通理解のもと、性差への先入観による固定的対応を行わないように努めています。「入園のしおり」に「男女共同参画社会に向けて」の記載もしています。

IV-1-(3) ⑨「標準的な保育の方法」を作成し、安全・清潔な環境の整備を心掛けています。

IV-1-(3) ⑩保育時間は夕方6時30分までとなっているため、夕食や軽食等は提供していません。園児個別の生活リズムに配慮した関わりに努めています。

IV-1-(3) ⑪「入園のしおり」において、統合保育の考え方～障がいの有無に関らず子どものあるがままの姿で共に育ちあうことを大切にしていこう～を伝えています。また、長岡京市の「障がい児保育巡回指導観察」等で関係機関との連携や相談を行っています。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育 児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]

IV-2-(1)①朝夕の保護者の送迎時での関わりに加えて、「れんらくノート」や「あいあいノート」に保護者・職員が日々の生活や体調を記録するように努めています。個別面談等も行っています。
 IV-2-(1)②個人懇談ファイルを設け、園児一人ひとりの入園から卒園までの保護者等との懇談内容等を記録しています。
 IV-2-(1)③園児の育児、発達相談については、年1回の「クラス懇談会」や年1～2回の「保育参加」、保護者同士の交流に取り組み、育児についての悩みを相談する場や話し合いの場を設けています。
 IV-2-(1)④発達、育児、虐待の未然防止については、職員会議やミーティングにおいて共通理解を深めるようにしています。「子ども福祉課」「京都府家庭支援総合センター」等の関係機関とも連携をはかっています。
 IV-2-(1)⑤児童虐待の通告にあたっては、行政機関への連絡先をマニュアルに明示し対応しています。
 IV-2-(1)⑥保育日誌等に必要ことは記載しています。「保幼小連携会議」や「保幼小連絡会」があり、記録は地域の関係機関との連携に活かしています。
 IV-2-(2)①平成21年度より「一時預かり保育」を行っています。一人ひとりの子どもの状況に応じて心を配るとともに、通常保育の子どもとの交流を視野に入れています。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A

[自由記述欄]

IV-3-(1)①「衛生管理マニュアル」「調理室の衛生管理点検票」「職員のチェック表」があり、調理場をはじめ、園内の水周りは清潔であり、調理器具等は整理整頓されています。
 IV-3-(1)②「食中毒対応マニュアル」は最新の情報を取り入れ、定期的に見直しをしています。又、発生時に必要な手袋・消毒液・バケツ・ビニール袋等の用具も常備しています。
 IV-3-(1)③④⑤事故防止、災害対応、不審者対応等のマニュアルを整備し、職員への周知徹底をはかっています。「安全点検チェックリスト」に基づき、月に1回保育室・園舎・園庭・遊具等の安全点検を実施しています。また、「危機管理マニュアル」に基づいて、月に1回避難訓練（火災・地震・不審者進入など）を行っています。また、警察が主催する安全教育に関する研修に参加しています。